

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1173200948
法人名	よしの佐久良有限公司
事業所名	認知症対応型共同生活施設 よしの佐久良都幾川
所在地	〒355-0357 埼玉県比企郡ときがわ町大字田中380番地 (電話) 0493-66-2000

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年12月1日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000円 )	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 よし乃会、たまがわクリニック
---------	---------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの運営法人は、地域の医療・福祉の需要に応じて特別養護老人ホームをはじめとして種々の事業所を開設してきた。その一つとして平成16年に当該グループホームが開設された。豊かな自然に囲まれたゆったりした作りのホームである。法人の経営する関連事業所との連携システムもよく、利用者は必要なサービスを受けて安心した暮らしができる仕組みがある。「健康は人生最高の宝」の理念のもとに、食を中心としたケアを利用者本位に工夫し実践しており、利用者は穏やかな表情で暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携については、法人として日常的に関わりを持つように改善された。鍵をかけないケアについては、玄関ドアの下の方に鍵をかけているが、利用者が閉塞感を抱かず自由に安全に暮らせるような工夫がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は全職員に評価票を配布し、自己評価の意義について説明し、職員との話し合いを持った。話し合われた内容を管理者が集約し、自己評価票に記載している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年2回開催され、ホームの行事や取り組みについて説明して理解を得るように努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や面会時などの機会を活用し、家族の意見を聞くように努めている。内容により事例を文書化して話し合いを行っている。結果についても記録に残し、家族に報告するとともに職員への周知を図っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事に参加したり、ホームの行事に招待したりしながら交流をしているほか、中学生の体験学習やボランティアの受け入れもして地域との連携を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地元でとれた旬な食べ物を食することで健康の維持・増進をはかり、病気の予防に結びつけたいという考え方が「健康は人生最高の宝」という基本理念として反映されている。利用者の安心と尊厳ある生活を支えていくことを盛り込んだ理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には理念を伝え、内容を理解してもらうようにしている。ミーティングやケースカンファレンスなどの機会にも理念について話し合い、理念を共有するとともに、実践できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の人々を招待して交流を図っている。また、中学生の体験学習やフラダンスグループのボランティアの受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については職員や利用者家族にも報告し、課題の改善に取り組んだ。管理者は自己評価票を全職員に配布して、自己評価の意義について説明するとともに話し合いを持ち、管理者が集約して評価票に記載している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年2回開催されている。会議では、ホームの行事や外部評価など、ホームでの具体的な取り組みについて報告し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人としても日常的に町の担当者との関わりを持つことで連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、請求書を送付する際、必要な報告をしているほか、随時電話でも連絡を取り合い報告している。また、家族が訪問した時には、利用者の状況や介護計画について報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族が訪問した機会を活用し、家族の意見を聞くように努めている。意見や苦情については、職員間で話し合い、運営に反映させている。内容によっては話し合いの結果を文書化して家族に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員との個人面談や意向調査などにより職員の思いを聞き、離職の防止に努めている。法人の経営する事業所同士の異動時にはきちんと引き継ぎを行い、利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での全体研修及びホーム内での研修が計画的に行われている。研修内容は認知症や感染症に対するケアの実際など、職員のスキルアップに役立つ内容となっている。また、外部研修に参加した場合は、研修報告書を提出したり伝達研修を行い、職員への周知を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の経営する事業所同士の交流は活発に行われているが、地域の同業者同士の交流は少ない。		地域の同業者とのネットワーク作りには取り組み、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携がとられることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には事前に見学してもらい、納得の上でサービスを開始している。また、それまでの生活習慣を把握し、入居後もできるだけ継続されるように配慮している。例えば帰宅願望の強い利用者の場合、家族に手紙を書いてもらうなど、家族と相談しながらホームに馴染めるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と食事の準備や後片付けなどを一緒にすることで、職員は利用者から主婦の技を教えられることも多い。利用者が得意とすることが日常の暮らしの中で行われており、お互いに支え支えられる関係が築かれている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には本人、家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。散歩やレクリエーションなど、日々の生活の中で本人の思いを把握するように努めている。把握が困難な場合は、家族の意見を聞いたり職員同士で話し合い、本人の思いが汲み取れるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いやアンケート調査などを参考にして利用者一人ひとりの課題を明らかにし、具体的な介護計画を立案している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで定期的な見直しを行うほか、日々のミーティングで随時見直しを行っている。家族が訪問した時には計画を説明し、意見については計画に反映させるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、医療機関への受診を支援している。また、併設されたデイサービスを利用するなど、柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によるかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関の医師が週1回ホームを訪問し健康管理をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、入居時にホームの方針を伝え、本人、家族と話し合っている。ホームの方針は文書化しており、職員全員が共有できるように努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保の重要性や対応の仕方について職員は研修を受けており、一人ひとりの誇りを大切にケアをしている。個人情報漏洩しないよう、記録物の管理も適正に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や嗜好調査の結果を参考にしながら、一人ひとりの希望にそった暮らしができるように支援している。ホームの日課はあるが、本人の体調や希望により過ごし方を工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身近なところで収穫した新鮮な食材を使った食事の工夫があり、利用者と職員と一緒に食事を楽しむ雰囲気がある。嗜好調査を活かした支援や選択食もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回入浴できるようにしているが、本人の希望に応じて入浴回数や時間帯を決めている。また、本人の希望により同性介助にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の下ごしらえや下膳、食事案内の放送など、利用者は得意なことを役割とし、生き生きと行っている。買い物や花見など利用者が楽しめるような支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩はほぼ毎日出かけている。時には希望によりドラッグストアまで歩いて行くこともある。また、介護タクシーを利用して出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉や居室は施錠していない。玄関は、ドアの下の方に鍵があり施錠しているが、利用者が閉塞感を抱かず自由・安全に暮らせるように工夫している。職員は利用者の様子を察し、声掛けをしながら本人の状況等をみながら対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難誘導訓練、消火訓練を行っている。災害対策マニュアルはあり、避難経路も明記されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を基本として、利用者の状況に合わせた食事を工夫しているほか、嗜好調査を行い、本人の習慣や希望を取り入れた支援をしている。また、食事や水分摂取量を把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を兼ねた居間はゆったりした空間である。季節感のある飾りが施され、不快な光や音もなく、居心地良い共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具やインテリアが持ち込まれ、利用者一人ひとりにとって居心地良い居室になるよう配慮されている。		